

はじめに
ダイジェスト財務・非財務
ハイライト価値創造の歴史
価値創造プロセス社長メッセージ
CFOメッセージ**中期経営計画の進捗**
特集

マテリアリティ

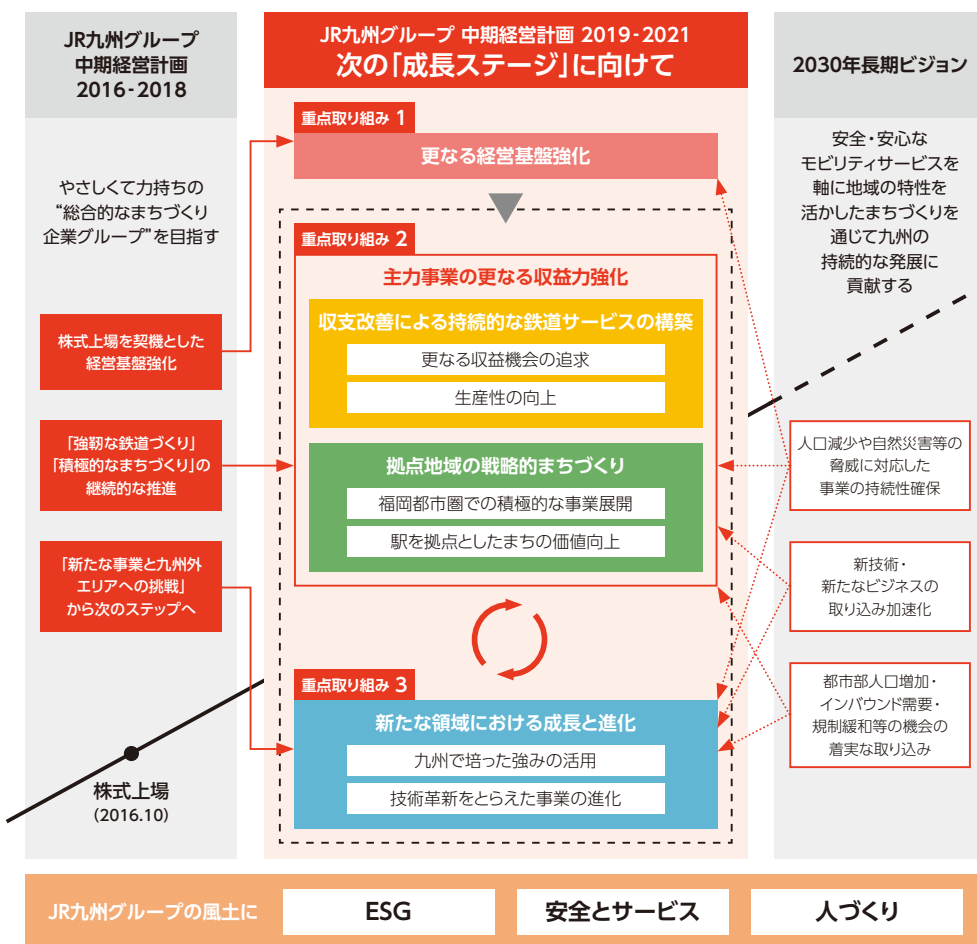
コーポレート
ガバナンス安全・サービス
人づくり地域を元気に
ステークホルダーとの対話

環境

セグメント情報
財務情報会社概要
投資家情報

中期経営計画の進捗

「JR九州グループ中期経営計画2019-2021」では、前中期経営計画からの課題及び長期ビジョンからのバックキャストの視点を踏まえ、「更なる経営基盤強化」「主力事業の更なる収益力強化」「新たな領域における成長と進化」を重点取り組みと位置付け、次の「成長ステージ」という高みを目指していきます。

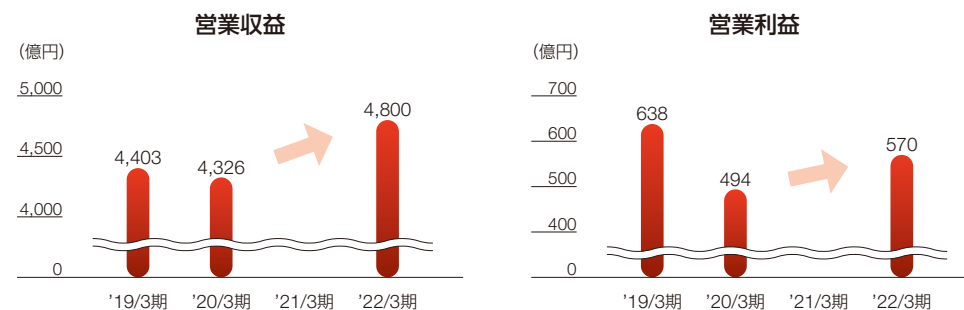


数値目標

中期経営計画の最終年度である2022年3月期において、連結営業収益4,800億円、連結営業利益570億円を経営数値目標として掲げています。

2020年3月期における当社グループの業績は、第3四半期まで堅調に推移していましたが、その後、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出の自粛やイベントの中止等により、鉄道事業をはじめとした各事業において、移動需要の減少及び個人消費の低迷などの影響を受けました。

この結果、営業収益は前期比1.8%減の4,326億44百万円、営業利益は前期比22.7%減の494億6百万円となりました。



セグメント名	営業収益*		営業利益*	
	'20/3期	'22/3期	'20/3期	'22/3期
運輸サービス	1,737	1,840	198	210
建設	993	980	65	60
不動産・ホテル	907	1,130	191	240
流通・外食	1,046	1,150	28	40
その他	721	760	22	25
合計	4,326	4,800	494	570

※各セグメントの営業収益、営業利益は、セグメント間取引消去前のものです

はじめに
ダイジェスト財務・非財務
ハイライト価値創造の歴史
価値創造プロセス社長メッセージ
CFOメッセージ**中期経営計画の進捗**
特集

マテリアリティ

コーポレート
ガバナンス安全・サービス
人づくり地域を元気に
ステークホルダーとの対話

環境

セグメント情報
財務情報会社概要
投資家情報

中期経営計画の進捗

対処すべき課題

中期経営計画の中で、3つの重点取り組みとして掲げた「更なる経営基盤強化」「主力事業の更なる収益力強化」「新たな領域における成長と進化」を推進するとともに、全ての事業の基盤となる「ESG」「安全とサービス」「人づくり」への取り組みに注力していきます。

重点取り組み

1

更なる経営基盤強化

当社グループは、ガバナンス強化及び効率的なセグメント経営を通じて、更なる経営基盤強化を図っていきます。

ガバナンス強化については、2019年6月より社外取締役を2名増員するとともに、業績連動型株式報酬制度を導入しました。さらに、2020年6月にはESGに知見がある社外取締役を選任しました。今後も、社外取締役が過半数で構成される「指名・報酬諮問委員会」を通じて、役員の指名・報酬等に関する手続きの客観性・透明性の向上を図っていきます。

効率的なセグメント経営については、2019年4月に設立した駅ビル会社及びホテル会社をそれぞれ統括する中間持株会社を通じて、スケールメリットを最大限に活かし、両事業の競争力強化を図っていきます。また、M&A等を活用した戦略的な事業ポートフォリオの形成や管理体制構築について取り組んでいます。2019年12月に佐賀県のお土産品「いかしゅうまい」を製造・販売する(株)萬坊を子会社化しました。また、2019年10月には、リース・割賦事業を主力事業とするJR九州フィナンシャルマネジメント(株)の株式を譲渡するとともに、2020年4月には病院事業を医療法人に事業譲渡しました。さらに、2020年5月には、JR九州ドラッグイレブン(株)の株式の過半を譲渡し、持分法適用関連会社としました。

重点取り組み

2

主力事業の更なる収益力強化

収支改善による持続的な鉄道サービスの構築

「新幹線」「近距離」「インバウンド」の主力分野の収益力向上に加えて、「ななつ星in九州」やD&S列車のブラッシュアップを通じた九州ブランドの価値向上、九州への誘客促進を図っていきます。

新幹線については、引き続きイールドマネジメントを強化するとともに、EXサービス(東海道・山陽新幹線のネット予約&チケットレス乗車サービス)の九州新幹線へのサービスエリア延伸を通じて、お客さまの更なる利便性向上を図っていきます。また、新D&S列車「36ぷらす3」の導入により、九州の新たな観光資源を発掘し、新たな鉄道の旅の価値を創出していきます。

今後の慢性的な人手不足が予想される中、新技術の活用による効率化や省人化を機会と捉え、将来に向けた生産性の向上を推進していきます。そして、今後本格化する九州新幹線西九州ルート「武雄温泉～長崎駅間」の開業準備を着実に進めていきます。



拠点地域の戦略的まちづくり

福岡都市圏における積極的な事業展開にあたり、特に九州・アジアの玄関口である博多を中心に、公募案件などを対象に様々な手法による不動産の取得・開発を推進していきます。

具体的には、福岡市内の「福岡東総合庁舎敷地有効活用事業」、「簗子小学校跡地活用事業」の2件の公募案件を獲得し、このうち「福岡東総合庁舎敷地有効活用事業」については、福岡市の提唱する「博多コネクティッド」エリア内に位置しています。当該事業をはじめとして、ハード・ソフト両面から博多駅周辺の都市機能向上に寄与していきます。

また、駅を拠点としたまちの価値向上を図るべく、駅ビル開業に向けて準備を進めている宮崎駅及び熊本駅周辺開発の総仕上げを進めていきます。そして、将来の長崎駅周辺開発や博多駅空中都市構想の基本計画策定等に取り組んでいきます。



福岡東総合庁舎敷地有効活用事業



簗子小学校跡地活用事業

重点取り組み

3

新たな領域における成長と進化

当社グループは、長期的な技術革新の潮流をとらえ、事業の持続的な成長と更なる飛躍を目指していきます。

新たなモビリティサービス(MaaS)の構築に向けては、他の交通事業者等との連携を進めています。今後は連携先とスマートフォンアプリを活用した実証実験を重ねる等、シームレスで利便性の高い、将来の持続可能なモビリティサービスの実現に向けて、引き続き取り組んでいきます。

鉄道の自動運転については、今後労働人口が減少していく中で必要な人材を確保していくため、将来的には運転士以外の係員が前頭に乗務する自動運転の実現を目指しています。今後は、運転士が乗務した状態で営業列車における実証運転を行うとともに、様々な検証や国との協議を重ねていきます。

